

館林市立第四中学校 学校評価一覧表 ②

(様式2)

自己評価 A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満

羅 針 盤			自己評価 (総合)	学校関係者 評価	学校関係者評価委員の意見	今後に向けての学校の考え
評価対象	評価項目	具体的数値項目				
I 保護者との連携 教頭・教務	1 保護者への情報提供	①「学校や子供の様子が分かる」と答えている保護者が80%以上 ②連絡メールやたより、学校HPなどから必要な情報が得られている保護者が80%以上	A	A	○生徒・保護者アンケート結果はすべての項目で90%に達しており、保護者との連携が十分にとれていることがわかります。より相談しやすくするために、工夫できることがあれば改善を進められるとよいと思います。 ○保護者にとって「学校は行きにくいところ（先生には相談しにくい）」というイメージがありますが、「相談しやすい」と感じている保護者が90.5%もいることから先生方の努力が感じられます。 ○激務の中よくやっているとしました。	①②引き続き、ホームアンドスクールやWebページなどを活用した情報発信に力を入れ、開かれた学校づくりに努めていく。 ③④引き続き、各担任が欠席した生徒や気になる生徒に対して電話連絡や家庭訪問などを通して保護者と連携していく。
	2 保護者への対応・学校への信頼	③学校は、「相談しやすい」と感じる保護者が80%以上 ④学校に安心して子どもを送り出すことができる保護者が90%以上	A	A		
II 確かな学力 学びの教育部	3 わかる授業づくり	⑤「意欲的に取り組んでいる」と答える生徒が80%以上 ⑥「授業が分かる」と答える生徒が80%以上	A	A	○生徒・保護者アンケート結果をみると、高い達成率になっており、教師の授業改善への高い意識が感じられます。○どのクラスの生徒も、真摯な態度で授業に臨んでいました。 ○学習態度も含めて指導が行き届いていると思います。	⑤⑥引き続き、「はばプラⅡ」に基づく授業づくりを推進していく。また、粘り強く学び続ける生徒を育成するために、達成感を味わえる授業実践をしていく。 ⑦様々な場面で、保護者に対して家庭学習の大切さを伝えていく。(例：新入生説明会において、家庭学習の予習・復習の具体的例や目標とする学習時間を伝える。) ⑦引き続き、家庭学習におけるスタディサブリ活用を促していく。
	4 基礎的な知識・技能を定着させる授業づくり	⑦「自力で課題を解決できるようになった」と答えている生徒が80%以上	A	A		
	5 学習習慣の定着の工夫	⑧家庭学習に平日平均1時間以上取り組める生徒が80%以上	A	B		
III 豊かな心 心の教育部	6 いじめのない温かい人間関係	⑨「学校は悩みやいじめの解消に努めている」と答えている生徒が80%以上 ⑩学級が居心地がよいと感じている生徒が80%以上	A	A	○学校全体として、生徒を大切にしようとする雰囲気を感じられます。 ○生徒の自己肯定感を高めるためには、計画的かつ継続的に様々な取り組みをしていくことが大切ではないかと思えます。 ○先生方が生徒に寄り添って個性を理解しながら指導していただいていると感じています。 ○全体的に生徒は落ち着いており、先生方との関係も良好に感じられます。日頃の先生方の努力の成果だと感じています。	⑨自己肯定感を高めるために、意図的かつ計画的に生徒を称賞できる機会を設定し、全職員で生徒を積極的に称賞していく。 ⑩いじめの早期発見・早期対応については、定期的に行う学校生活アンケートだけでなく、学校生活の様子を細かく見て、生徒指導部と教育相談部などで情報交換をしながら、組織的な対応をしていく。 ⑩心理の専門家であるSCを積極的に活用し、根拠に基づいた支援や対応をしていく。
	7 あいさつや時と場に応じた適切な言動をとることのできる生徒の育成	⑪進んであいさつをしたり、正しい返事ができる生徒が80%以上。	A	A		
	8 規範意識に基づいて判断し行動できる生徒の育成	⑫学校のきまりや約束を守って生活している生徒が80%以上	A	B		
	9 進路学習や指導態勢の充実	⑬学級活動における進路学習や総合的な学習の時間などの体験活動を通して自己の生き方を考えている生徒が80%以上	A	B		
IV 進路・生き方	10 将来の夢や希望を育むこと	⑭将来の夢や希望する進路について親子で話し合っている生徒が80%以上	B	B	○地域との連携を図るとともに幅広い職種の方と触れあえる機会が増えるとよいと思います。 ○熱心にキャリア教育を行っていると感じています。 ○希望する進路について、親子で話し合うだけでなく、先輩や友人と話をする機会を設定するとよいと思います。	⑬総合的な学習の時間については、年間指導計画を点検・見直しを行い、生徒が意欲的に探究的学習ができるような工夫をしていきたい。 ⑭進路学習は、4年ぶりに職場体験学習を実施し、その効果を感じることができたので、持続可能な職場体験学習を模索していきたい。 ⑭学年通信等で、保護者に対して生徒と将来について定期的に話し合う機会を設けるよう働きかける。その際、話し合うポイントを具体的に示していく。
	11 基本的生活習慣の定着	⑮朝食をとっている生徒が90%以上 ⑯十分な睡眠時間を確保している生徒が90%以上	B	B		
V 健康・体力 体の教育部					○生徒・保護者アンケート結果と、教職員の結果に隔たりがあることから、両方の数値が高くなる手立てをしてほしいと思います。	⑮朝食を摂ることの大切さについて、保健日よりや学級懇談会、三者面談等とおして、全家庭に働きかける。 ⑯学校保健委員会や保健委員会などの活動を通して、睡眠時間や食生活の大切さについて生徒や保護者に投げかける。また、三者面談や保健日より等で継続的に啓発していく。

	12 体力向上	⑰体を動かす工夫をするなど運動（部活動・体育の授業を含む）や地域のスポーツ活動などに取り組んでいる生徒が <u>80%以上</u>	A	B	○生徒が校庭で熱心にランニングをしている姿を見かけます。 ○国の方針が過保護を容認している部分があるため、年々体力が低下したのではないかと感じています。教師はあまり無理をさせられない状況ではなかとと思います。	⑰朝トレなどの体を動かす機会を意図的に設定し、コロナ禍で低下した体力の改善を図っていく。
VI 安全確保	13 学校の安全対策	⑱「学校は安全である」と感じている生徒・保護者が <u>80%以上</u>	A	A	○校内の環境整備がしっかりできていました。 ○校内で危険を感じることはありませんでした。 ○PTAと連携し、校内環境整備に力を入れていることがよく分かりました。	⑱月1回の安全点検では、年度末は複数で実施し、次年度前に改善や対策を行う。
	14 地域の安全対策	⑲安全に通学できるよう、交通ルールに気をつけて登下校できる生徒が <u>100%</u>	A	A	○登下校で見かける生徒は、ヘルメットをかぶり安全に気を付けながら自転車に乗っていました。 ○安全指導は、親や地域の役目と考えています。 ○通学・下校時の交通指導の徹底を図ってもらいたい。 ○大きな事故は起きていないが、「ハインリッヒの法則」から危ない目に遭っている人は何人かいるのではないかとと思います。日常のご指導お願いします。 ○時々ではあるが、ヘルメットをかぶらなかつたり、道を広がって並列走行したりする生徒を見かけます。	⑲定期的に職員・PTAによる交通指導を実施していく。また、生徒主体の通学路点検を行い、生徒の安全意識を高めていく。
VII 組織運営 教頭	1 学校経営の協働参画システムの構築	①「組織の一員としての自覚をもって担当している校務分掌に意欲的に取り組み、職員の理解や協力が得られている」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	A	A	/	①組織の一員としての自覚が持てるように、適材適所で業務を分担する。その上で、サポート体制を整え、組織的に業務が遂行できるようにする。  ②運営委員会で検討事項を十分に協議し、職員会議で焦点化した内容で共通理解を図り、会議時間を短縮していく。  ③相談しやすい職場の雰囲気づくりを全職員で心がけ、連絡・報告・相談体制を整備する。  ④学校で起きた問題を個人に留めず、学年・学校全体で情報共有し、全職員が自分事として受け止められるようにする。  ⑤学校環境の整備については、全職員で担当する場所を日々点検し、整備が必要な箇所を発見した場合にはすぐに報告し、迅速に整備できるようにする。 ⑥毎月、「服務規律チェックリスト」で自己点検を行い、規律確保の意識が下がらないようにしていく。
		②「職員会議や学年会議等が情報交換や課題検討の場として機能している」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	A	A		
		③「教職員間の相互理解が十分なされ、信頼関係に基づいた教育活動を行っている」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	A	A		
		④「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に話し合える職場の人間関係ができています」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	A	A		
		⑤「教室内外の環境整備に向けて努力している」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	A	A		
		⑥「この職場は、教職員の服務規律確保への自覚が高い」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	A	A		
	2 学習指導・生徒指導の推進	⑦生徒一人ひとりを大切に授業づくりや生徒との信頼関係づくりに努めている教職員が <u>100%</u>	A	A		⑦人権に配慮した授業、自己肯定感を高める授業を全職員で実践していく。 ⑧校内研修において、はばプラⅡに基づく授業づくりを推進し、指導力の向上を図っていく。また、一人一授業を通して、グループごと授業を見合ったり、助言し合ったりしながら指導力を高めていく。
		⑧「積極的に授業を見合い、互いに学び合うことによって自分の授業作りに生かしている」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	A	A		
	3 公文書や個人情報等の情報の適切な管理	⑨「各種文書・データ等は、校務分掌や担当ごとに適切に管理されている」と答えている教職員の <u>80%以上</u>	A	A		⑨⑩情報漏洩対策として、毎月「服務規律チェックリスト」で自己点検をしていく。また、学期末には注意すべき事項を確認し、個人情報確実に保護されるようにしていく。
		⑩「個人情報が確実に保護され、管理が徹底されている」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	A	A		